

2013年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会
《 審判員の育成 ～公認B級審判員～ 》配布用

◆シャドーイング

◆試合実技

1. 公認B級審判員認定において、単独動作(各審判員)および連続複合動作(主審として)ができなければいけない課題とされているが、なぜ必要なのか？
2. 試合実技試験では、どのようなことが、できなければいけないのか？

「シャドーイング」の共通ポイント

- ・十分な声量と、笛は十分な音量か、リズム、タイミングはどうか？
- ・手を伸ばすべき動作では指先まで意識して伸ばせているか。
- ・動作(手の形、高さ等)は統一基本通りか。
- ・単独動作では余分な動作をつけてないか。
- ・試合のイメージ、流れを意識できているか。
- ・課題を読み上げられてから、スムーズな行動に移せているか。

○単独動作

「集合」

集合の形を作ってから、「ピーツ」という十分な音量にて長い笛を吹いた後で、「集合」と十分な声量で言えているか。声を出し終えるまで形は崩さない。

「○番アウト」

手の動作、掌を床面に対し垂直とし、当該プレイヤーを指す。

「ファール各種」

手の動作、片腕を天に垂直にあげた（掌は自分の体と同じ向き）と同時に「ピーッ」という十分な音量にて長い笛を吹き、試合を止めた後に各々のファール名動作を行う。動作のないファールについては、アウトと同様の動作で、当該プレイヤーを指し、ファール名をコールする。

「試合終了」

動作、両腕を天に垂直に伸ばし、左右の掌は内側に向ける。

笛を吹き鳴らし、走ってセンターサークル中央まで行き、試合を終了させる。

その時ボールから目を離す人が多いので、絶対にボールから目を離さない意識を持つこと。

「人数報告」

記録員に対し人数報告及び確認をしているか。（報告してすぐに手を下してないか）。

「タイムの要求」【副審、線審】

副審：手の動作（主審と同様）と同時に笛を吹き鳴らし、走ってセンターサークルまで行き、試合を止める。

線審：動作（旗を扇状に振りながら）と同時に笛を吹き鳴らし、走ってセンターサークル中央まで行き、試合を止める。

線審の「ワンタッチ」、「ノータッチA」、「ノータッチB」

ワンタッチ：旗を頭上に上げ、旗の先端部に反対側の掌を当てる。

ノータッチA、ノータッチB：旗を天に垂直に上げる。

線審の「オーバーライン」「ホールディング」「アウトプレイ」

ファールの動作をしてから、個々のファール名動作とコールをすること。

線審の「アドバンテージ動作」

ファールを確認したと同時に旗をプレイヤーに向けて指す。

○連続複合動作(主審)

「ジャンプボールコールからトスアップまで。」

「ジャンプボールのやり直しからトスアップまで。」

「ピーッ」タイム時にタイムの動作が出来ているかを確認。

「ジャンプボールをやり直します」と言ったあと、タイマーの確認、副審とのアイコンタクトを意識できているか。

「○コートチームのオーバーライン～支配権の指示～タイムインまで。」

ファール動作及びそれぞれのファール名動作が一つ一つ確実に行えているか。

支配権の指示の時は、掌の向き、腕の上げ方に注意、確実に動作を行っているか。

常にボールの位置を把握し、ボールから目を離さない意識があるか。

「〇番アウト」～アウト・オブ・バーンズ～支配権の指示～タイムインまで
それぞれの動作を一つ一つ確実にできているか？
プレイヤーに対して極力正対し、背筋を伸ばし、コールする。

線審の確認は、4線審に対し確実に行う。

「〇内野からのアタックが相手選手へのヘッドアタック」となった時の
処理（オフィシャルタイムアウト～タイムインまで）
オフィシャルタイムアウトの動作後、プレイヤーをその場に座らせる。
ヘッドアタックを受けたプレイヤーへの安全確認後、監督を招集。

オフィシャルタイムアウトの報告後、支配権の指示、定位置に戻り
タイムイン。

2013 年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会
《 実技統一事項 》

ファール発生に伴い、アシストキャッチ不成立となり、「アウト」を確定させる場合の手順。